

2023年6月のNO₂(二酸化窒素)測定結果

東都生協は「身近なところの空気を実際に測ってみて、自分たちで確かめ、きれいな空気を取り戻すにはどうすればよいのか?」を考えていただくことを目的に1988年からNO₂(二酸化窒素)測定活動を実施し、測定結果を「大気汚染測定運動東京連絡会*」に提供しています。

この連絡会では生協のほか、さまざまな団体から集めた測定結果を基に、大気汚染の改善を求めて運動を展開しています。毎回の地道な測定活動の積み重ねが大きな運動を支えています。

測定日時 2023年6月1日(木)午後6時~6月2日(金)午後6時
※前後2時間を有効とする
天気 6月1日(曇り) 平均風速: 3.9m/S
6月2日(雨) 平均風速: 3.9m/S

測定規模
・参加人数: 217人
・カプセル配布数: 248個
・カプセルの返却数と回収率: 235個(94.8%)
・有効とした測定数と回収率: 188個(75.8%)

測定結果 今回の全体平均濃度は、0.011ppmでした。過去5年間に測定した6月の平均濃度(0.017ppm)と比べて低い値になりました。

都内の大気汚染常設監視測定局が測定したNO₂平均濃度は、道路沿いが0.014ppm、住宅地は0.009ppmでした。なお、環境省が定めたNO₂の基準値は「0.040~0.060ppmのゾーン、またはそれ以下であること」とされています。

地域別の測定結果

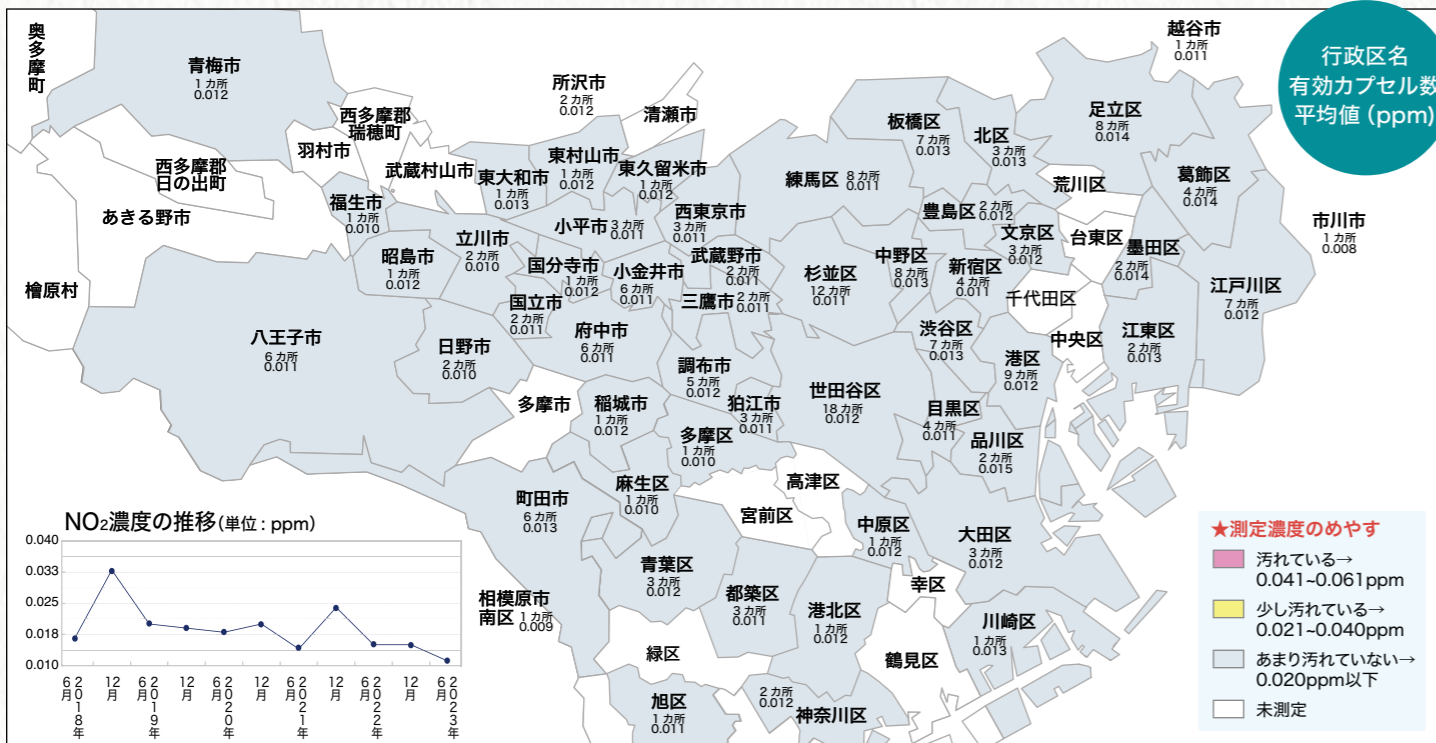
測定地域	測定結果	前年実績
東京都全体	0.011	0.015
東京23区	0.012	0.017
東京多摩地域	0.011	0.014
神奈川県	0.011	0.023
埼玉県	0.011	0.015
千葉県	0.008	-

大気汚染測定運動東京連絡会

大気汚染測定運動に参加する各地域実行委員や団体の自主的な活動を基盤とする連絡会です。

きれいな空気を取り戻し、健康と環境を守り、大気汚染による健康被害を防ぐことを目的に活動を進めています。

東京連絡会全体で取りまとめた測定結果は、東京都や環境省に報告され、有害物質の排出抑制を進めるための貴重なデータとして活用されています。



理事会報告(抜粋)

2023年度第3回定例理事会(2023年7月20日開催)

- 審議事項
報告事項
●2023年度第49回通常総代会のまとめ確認の件(その2)
●2023年6月度決算報告
●各部署業務報告
●組合員活動委員会報告
●商品活動関連報告
●2023年度子会社・関連会社への役職員の派遣に関する件
●理事懇談会・研修会開催の件
●常任理事会決議事項報告

今後の理事会日程(予定)
・10月19日(木)
・11月16日(木)

<7月の私たち> 2023年7月20日現在 ※[]内は前年比

組合員数	257,052人	[100.0%]
加入	3,489人	[132.8%]
脱退	2,747人	[99.5%]
総事業高	11,309,837千円	[96.0%]
共同購入事業	10,822,244千円	
弁当配食事業	130,143千円	
生活文化事業	89,036千円	
生活支援事業	23,723千円	
その他事業	244,690千円	
出資金	6,755,608千円	[99.6%]
1人当たりの出資金	26,281円	[99.6%]
1人当たりの利用高	6,160円	[100.6%]

MOGMOGレポート

10 2023 月号

01 お墓の悩み・疑問 解決しませんか?
6月26日
上石神井ブロック委員会

誰もが必要だけど、誰もがよく知らない。聞ける機会が少ない「お墓」に関するあれこれを、東都生協・生活文化事業部の泉澤賢一職員、提携石材店・須藤石材(株)の塩崎唯一さんから学びました。

昔と変わってきている現在のお墓事情に一同びっくり。お墓を買う前に聞きたかった!という声もあったほどです。

<学習会の主な内容>

- ・「お墓」の基本的知識、料金体系・仕様内容
・永代供養と永代使用の違い
・間違わない「お墓」選び
・「お墓」の引っ越し・墓じまい・「お墓」のリフォーム
・住職との関係など

「供養は、お金の面だけでなく、精神的に次の世代に伝えるものに関係するから、日ごろから家族と話し合う大切さを感じた」という感想も。質疑応答で個別の疑問も解消され、満足度の高い学習会となりました。



02 東都生協プライベート ブランド・はちみつ 活用術講習会
6月27日
小平西部ブロック委員会

机の上に並んだたくさんの種類のはちみつは、どれも個性派ぞろい。花によってこんなに味が違うことにビックリの様子でした!!

講師の(株)藤井養蜂場の小笠原茂樹さんから、「ふたを開けたままでそのままになっているはちみつはありませんか?と声をかけられドッキリしたり、「はちみつは絶対に腐りません。結晶するのは当たり前、軽く温めるだけでOKです」との言葉にホッとしたり。砂糖をはちみつに換えるだけで料理がまるやかになるんですね。

世界に目を向ければ、干ばつなどではちみつ不足。国内に流通する国産のはちみつは、わずか5%~6%。そんな貴重なはちみつをプライベートブランドとして扱っている東都生協はすごいとみんなが声に出して言います。

久しぶりの対面での講習会は、笑いとうれしさがこだまする楽しい時間となりました。



03 体調管理に役立つ 「中医学講座・未病 養生法」
7月3日
とーと会「WakuWakuサロン」

定員30人に90人の応募があった人気講座です。一般社団法人中医未病協会の栗山純子さんを講師に開催しました。

未病とは、発病には至らないものの軽い症状がある状態をいい、軽いうちに異常を見つけて病気を予防しようというものです。「普段の生活と食事で未病を防ぎ、それを2~3カ月続けて効果がなければ初めて薬を使う」という話に励まされました。

体質は7つに分類されます。チェックシートで自分の体質を知ると、それに応じた生活の仕方や良い食材が分かります。

「舌は体の状態を反映するので、朝起きてすぐの舌の表・裏をチェックするとよい」「毎日おいしく食べられることが元気のもと」「夜の食事は控えめに」などすぐ実践できる方法もたくさん学ぶことができました。



MOGMOG 学習会

これからも “リズムある文章表現” を目指します!

組合員の編集委員が作る「MOGMOG」。リニューアルを前に「ライティング学習会」を開催。

取材の仕方や文章の書き方、キャッチコピーなどを学びました。

最も伝えたいことを絞り、リズム感のある文章表現を心掛けこれからも元気に情報発信していきます!



Pick up

生産者の現状を知り、行動しよう! —「秋川牧園」鶏肉生産の現場に学ぶ 商品委員会「商品について議論する場*第2回」(7月26日オンライン開催)

講師の 緒方宏次さん

年に4回開催される「商品について議論する場」。今回は「4.22みんなdeミーティング*酪農・畜産の危機」に連動し、鶏肉生産の現状を学び、意見を出し合いました。

「口に入るものは間違っではいけない」山口県を拠点に農業を営む「秋川牧園」は、先代の想いを理念に、安全・安心な食べものづくりや、飼料用米の作付けで循環型農業を実践するなど、持続可能で環境にも配慮した経営を貫いています。生産コストの上昇や、人手・後継者不足、鳥インフルエンザや自然災害など、多くの課題を抱える中、堅実な取り組みをされています。

「食料自給率は国の力」 「日本の食料自給率は先進国で韓国の次に低い38%(カロリーベース)。食料自給率は真に豊かな国の証でまさに国力、防衛力にもなります。これからは輸入農産物(飼料含む)が手に入りやすい事態が予想される。食の未来づくりには自給率向上は不可欠。農業を守ることは国全体での重要事項。本気度を見せてほしい!」と語る緒方さんの熱量が伝わりました。

「食べる約束が生産者を支える」 後半は、グループに分かれて意見交換。消費者の継続利用が、計画生産につながり生産者を支えていることを再確認。一人ひとりが消費行動を見直すことの大切さ、どうしたら国を動かし農業の危機を転換できるのか、などを考える機会になりました。本気度を上げていきましょう!

【グループごとに感想や意見を交換しました】
○モノづくりに真摯に向き合っている生産者がいることを心強く感じた
○鶏一羽・稀少部位も届く「若鶏セット」を登録したい
○学びの機会を増やして、生産者の厳しい現状を知らせたい



「人が食べても大丈夫」を目指した国産米配合のエサで、のびのび育てられる若鶏

商品委員会をはじめ、組合員が商品づくりに参加できる機会を広く設けています。詳しくは→

